



給力：
人民日報の一面の見出しに使われたネット用語

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-10-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大形, 徹, 白, 雲飛, 孔, 令竹, 横大路, 綾子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004408

给力——人民日報の一面の見出しに使われたネット用語

大形徹・白雲飛・孔令竹・横大路綾子

はじめに

人民日報は、世界の十大新聞の一つで、中国最大の240万部の発行部数を誇る共産党の機関誌である。その2010年11月10日の一面の見出しに「江蘇给力」という見出しが載ったときに、この「给力」という言葉を理解できなかった中国人も多かったのではないだろうか。日本語に訳せば「江蘇省スゴッ」という感じであろう。「スゴッ」と訳する「给力」は、最近、ネット用語として流行している言葉である。その流行の発端が日本のアニメのネット上の中国語の翻訳にあるという説を毎日新聞で金子秀敏氏が紹介している*1から驚きである。

「给力」は『漢語大詞典』全12巻という中国語の大部の辞書にも載っていない言葉である。そのため、簡単にいえば、かりに『漢語大詞典』を丸暗記しているような中国語の達人であっても理解できない言葉ということになる。また2007年に出版された新語辞典の『現代中国語新語辞典』（相原茂編集、講談社）にも載っていない。

まわりの中国人や中国通の日本人に聞いてみたところ、大阪府立大学の顧春芳先生をはじめ、ほとんどの中国人および中国語に関わる日本人も、この言葉を知らず、また意味も完全にはわからなかった。そのなかで知っていたのは共同執筆者の一人である孔令竹(22歳)と白雲飛のみであったが、この二人の「给力」に対する感覚は、ひどく異なっていた。しかし、むしろ、そのことが、この小論を草さしめたきっかけでもある。



「给力」は日本語に訳せば、さきに訳したように「スゴッ」ぐらいか。「すばらしい」でもなく、「すごい」でも微妙に違う。よく使われている中国語でいえば、「厲害」「了不起」ぐらいが適当だろう。「厲害」は口語でよく使用されるが、この言葉ですら人民日報のような共産党の機関紙に使うには軽すぎる。それが「给力」であれば、たとえば、2ちゃんねるのネット用語が朝日新聞の一面の見出しに使われたようなものである。

当然、そのこと自体に反響があった。私が目にしたのは毎日新聞の記事であったが、ここでは、その中国語版とその対訳の英字版の第一段落のみを紹介しよう。

流行语给力登上人民日报头条标题引发热议(trendy)

By Wei on 11/10/2010 11:52:20 PM - 0 comments

[http://www.englishtown.com/community/modules/Blog/EntryId/5729/default.aspx?Group_Id=A](http://www.englishtown.com/community/modules/Blog/EntryId/5729/default.aspx?Group_Id=ADEANwA)
DEANwA

网络热词“给力”登上《人民日报》头版头条。11月10日，《人民日报》头版头条标题《江苏给力“文化强省”》让不少人有些“意外”。一向以严肃严谨著称的《人民日报》采用如此“潮”的标题，立刻引发如潮热议。

The newly coined “hot” term on Chinese internet these days is “geili”, which means to give support or power. Recently, that internet term has found its way to a front-page headline on People's Daily. On November 10th, a headline read on the front page of People's Daily papers - “Jiangsu Province Geili (Extends Support For) Developing Better Local Culture.” This has surprised many readers, as People's Daily had always been known to adhere strictly to proper word usage and formality. And as such, the “unusually trendy” headline has spurred excited discussions online.

最初の一段落のみの紹介だが、この記事によって「给力」が使われた見出しが、どれだけインパクトを与えたかがわかる。

二、人民日報の見出しと本文

冒頭の写真で紹介している人民日報の記事は、「回眸十一五 展望十二五：江蘇給力“文化強省” [11月10日]」として<http://politics.people.com.cn/BIG5/14562/13174650.html>でも読むことができる。これは人民網記者 趙京安が書いている。趙京安は女性で、

<http://www.people.com.cn/BIG5/other4583/4619/4659/index.html>には顔写真も公開されている。



肩書きは人民日報社江蘇分社 副社長とある。肩書きから判断しても、ベテラン記者のようにみえる。

まず見出しの部分を紹介してみよう。大文字の見出しの上の部分に、「改革攻坚迸發動力 政策創新激發活力 厚積薄發釋放能力」という小文字の見出しがある。ここに「動力」「活力」「能力」という言葉が見え、それらにあわせて、「力」という文字の入った「给力」が使われている。文字が同じなので発音も同じであり、結果的に韻を踏んだようになる。新しい言葉である「给力」を書き出すまでに、ちょっとした工夫を凝らし、呼び水としているのである。周到的見出しといえる。日本のスポーツ新聞の見出しでダジャレが使用されているのと、よく似ているが、さすがに詩経以来の押韻文化があるため、少し高級なイメージがある。

そのあと大文字の見出しで、「江蘇给力“文化強省”」と続く。本文は、

“文化大省”怎樣加快建成“文化強省”？江蘇用實實在在的業績寫出了漂亮的答卷：全省文化產業增速連續5年達30%以上；覆蓋城鄉的公共文化設施體系基本形成；各地文化產業立項投資規模超過3400億元；到今年底，中央和省委、省政府確定的文化體制改革時間表、路線圖、任務書將全面完成。

というもので、具体的な数字と金額をあげ、“文化大省”であった江蘇省が迅速に“文化強省”となった経緯を述べている。

この「给力」の用法をみると趙京安氏は相当、頭のよい記者であり、文章に対する感覚もこの上なく鋭敏で、「给力」をこの文章に使うことの効果と反響をあらかじめ予想した上で使用したのであろう、と当初、考えた。ところが、その推測に反して、インターネットで検索してみると、全く異なった話が紹介されていた。

以下、http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/news.xinhuanet.com/local/2010-11/13/c_12769975_2.htmから紹介する。

網絡熱詞给力登上人民日報頭版係年輕編輯所擬

2010年11月13日 09:30:12 來源：揚子晚報

登峰造極：上人民日報頭版頭條

在很多人看來，“給力”的紅，到本月10日“登峰造極”。當天，一向嚴肅的《人民日報》，頭版頭條的標題就用了“給力”——《江蘇給力“文化強省”》，短短8個字，一下子就成為網上、辦公室、課堂、街巷話題的焦點。

“連一貫嚴肅的人民日報都用‘給力’，我被鎮住了！”南京市民李先生這樣描述他那天拿起《人民日報》的感受。更多的網友則更樂於探討《人民日報》用“給力”做標題的喻意。“給力啊！代表了黨報對網絡聲音的了解和接受。”“真時髦，這是黨報黨刊改變文風的‘給力’之作！”這兩天，類似的討論帖已達28萬多條。

幕後 連線人民日報記者趙京安"給力"是年輕編輯改的

據《江蘇給力“文化強省”》的作者——人民日報江蘇分社副社長趙京安介紹，她的原稿標題是《“文化強省”看江蘇》，文中並沒有提及“給力”這個詞。10日當天早上，看到見報的這個“給力”標題，這位資深的記者坦稱自己也感到驚訝。“人民日報作為黨中央的機關報，發行量240萬份，是全國第一大報、全球十大報紙之一。雖然我之前就接觸過‘給力’這個網絡用詞，但從沒想過把它用在稿子裏。”趙京安說，“給力”這個詞若出現在《人民日報》第6版以後的專副刊版面上，可能她不會覺得驚訝，如今竟出現在要聞版，而且是頭版頭條，這是她怎麼也沒想到的。

趙京安告訴記者，她後來專門了解了此事。原來“給力標題”的誕生，可謂“過五關斬六將”。她的原標題《“文化強省”看江蘇》順利通過編輯流程的前兩關，到了總編輯部時，幾個年輕的編輯共同想出了《江蘇給力“文化強省”》這個題目，另外還擬了其他幾個標題備選，究竟用哪個更好，大家都不確定，最後，由值班老總拍板敲定最後的標題。

“我感覺這個標題改得很好，跟年輕人很匹配，因為文化產業本來就是年輕人所喜歡的。”趙京安說，從這個標題可以看出，報社很開明，報網互動的意識很強。

相關 "編輯會不會要寫檢查""神馬都是浮雲"

一個僅八個字的標題卻引發了熱議，緣於“給力”一詞的網絡屬性與《人民日報》

嚴謹平實的風格產生了強烈的反差。有意思的是，不少人為《人民日報》的頭版編輯“擔心”。比如鳳凰衛視名嘴楊錦麟就在他的微博裏發問，不知道編輯檢查寫起來是不是也“給力”。對此，《人民日報》視點新聞版主編何煒在自己微博中幽默地回應稱：“顧慮很給力，不過神馬都是浮雲……”

以上の内容をかいつまんで説明すると、《人民日報》の見出しに、「給力」を使用した《江蘇給力“文化強省”》のわずか8個の文字が、ネット上、事務室、学校、巷で話題騒然となった。趙京安の原稿のももとの標題は、《“文化強省”看江蘇》で、「給力」は使われていなかった。ところが、最後の編集会議の時に、何人かの若い編集者が共同で《江蘇給力“文化強省”》という題目を思いついた。他にもいくつか候補があったが、どれを選ぶか決めかねていた時に編集長が「給力」を入れた標題に決定した、というものである。やはり、ネット世代の編集者が関与していたわけである。そして、その記者たちが、ふだんから「給力」を口にしていたことは容易に想像できる。

興味深いのは、このことに対して趙京安は、

我感覺這個標題改得很好，跟年輕人很匹配，因為文化產業本來就是年輕人所喜歡的。
(私はこの標題はこのように改めてとてもよくなったと思います。若い人にもぴったります。なぜなら、文化を生み出す仕事は本来、若い人の好むものだからです。)

と、非常に柔軟なコメントをしていることである。

この報道には追伸があり、以下のように記されていた。

延伸

《人民日報》10日“給力”（人民日報は10日に「給力」だった）

12日，有10家報紙都“給力”（12日に10の新聞がみな「給力」になった）

正如南京大學金陵學院新媒體係主任楊溟所預測的，“人民日報的給力標題”是一種信號，今後傳統媒體可能會越來越多地使用網絡媒體的詞匯，這對傳統媒體來說，也是一種“與時俱進”，給讀者一種新鮮感，能很好地拉近與讀者的距離，記者昨日粗略統計了一下，11月12日一天，全國至少10家媒體不約而同都給力地用了“給力”。

(まさに南京大学金陵学院の新マスコミ系の主任の楊溟の予測するように、「人民日报の给力という標題」は一種のシグナルで、今後、伝統的なマスコミもますます多くネット用語を使うようになるだろう。これは伝統的なマスコミにとっても、「時とともに進む」ことで、読者に一種の新鮮感を与え、読者との距離を縮めることになるだろう」と。記者(私)の昨日の粗雑な統計では、11月12日の一日に、全国で少なくとも10のマスコミが、それぞれ勝手に^{ゲイリー}给力な感じで“给力”という言葉を使っている。)

11月10日の「给力」事件を境に中国のマスコミが大きく動いたことが如実にわかる記事である。

三、十六年ぐらい前に使用されていた给力

给力が、いつごろから使われていたかについての正確なところはわからない。前述の金子氏は、「「给力」は中国北方方言で、すごいという感嘆詞」と述べている。共同執筆者の白雲飛は内蒙古の通遼出身であるが、1980年ぐらいに、「**给劲**」という言い方が流行していたという。この言葉も『漢語大詞典』あるいは先の『新語辞典』には載っていない。宴会の席などでよく使われていたという。たとえば、たばこのニコチンの量が多いときに、「**这个烟很冲，很给劲儿。**」と使っていた。あとは酒の度数の高いときに、「**这个酒很冲，很给劲儿。**」と使用していたという。白雲飛がいた東北の通遼市では、ある時期男たちは人前でも、堂々と媚薬のことを語った。彼らはむやみに媚薬の力を信じて、ある薬を閨房で使い、よく効いたときに、「**很给劲**」と言った。「**给劲**」には、男の人が元気になるという意味あいも含まれていたため、女性は使わないということであった。1994年あたりに、白雲飛は、通遼出身の男性が北京で「**给劲**」と「给力」をほとんど同じ意味に使用した例を覚えているという。「在这件事上，他的力量不够，也不愿帮忙，很不给力，不够哥们儿意思。(この件では彼の力は足りないし、また助けてくれようともしてくれない、頼りにならない、まったく男気のないやつだ)」と。

白雲飛が「给力」という言葉を初めて聞いたときに何の違和感もなく、「**给劲**」という意味で理解した。ただ、いつ「**给劲**」が「给力」になったのかははっきりしないという。「**给劲**」という言葉は白雲飛の暮らしていた東北では、生活や仕事に、ごく普通に使っていた。「力」と「**劲**」の意味合いがほぼ同じであるため、「给力」を聞いた時に「**给劲**」とほぼ同じと理解したという。

白雲飛の兄は、通遼教育学院の体育教師で、若い世代との交流が多いが、ここ数ヶ月(取材は2011年1月)、「给力」の使用例をよく耳にするという。彼もまたその言葉は「**给劲**」

由来と考え、「给力」は「从東北出来的(東北から出てきた)」と感じているという。ただ、白雲飛の兄自身は、この言葉を使うことには抵抗があるという。

四、中国のネットで使われている给力

毎日新聞の記事で、金子秀敏氏は、ゲイリーの発信元を、増田こうすけ氏の「ギャグマンガ日和」の動画の中国版吹き替えにあるとみている。そこで、ここでは、その原文および、中国語の訳語について検討する。

(1) 増田こうすけ氏の「ギャグマンガ日和」の『西遊記』旅の終わりの訳語
「これが天竺ですか。地味ですね」の「地味」が「不给力」と訳されている。増田こうすけ氏の『ギャグマンガ日和^{*2}』第5巻には、「これが天竺か…すごい地味ですね法師……」とある。この動画が日本語でyoutubeやニコニコ動画などにアップロードされていた^{*3}が、それにもとづいて中国語の音声と字幕が配されたものがある。

- ①「三藏法師一行前往天竺」
- ②「旅途中劫難重重、終於走到了尽头」
- ③「『西遊記』旅程的終点」
- ④「这就是天竺么 不给力那老湿」

なお、この動画には台湾で翻訳されたとおぼしきものもあり、そこでは、「不给力」ではなく、「土氣」とされている。これは「地味」という意味の中国語である。

(2) おそらく、二のような用例と、ここでみた日本のマンガの動画の用例などが下敷きとなって、中国のネットで「给力」が使用されるようになった。ここでは、孔令竹によって、中国のネットで使われている用例と、孔自身が具体的にどのように使用しているのかを紹介する。

1, 目前, 在使用中国最广泛的聊天工具之一腾讯QQ时, 网民的聊天对话框里经常可以看到给力, 或者不给力这样的口头禅。

例如同学之间, 网聊时, 会说到: “昨天的物理实验课真的很好玩, 太给力了”。意思是说, 昨天的课十分的有意思。反之, 今天的语文课真枯燥, 真不给力。意思是说, 今天的语文课十分没意思。

再者谈及公司的工资上涨时候也会说：“这个月，我们老板很给力！”意思是说，这个月工资上调，对老板做出这一决策，表示十分的高兴，可以理解为：这个月，我们老板真的很好，要给我们涨工资。

还有，玩网络游戏的时候，一旦有新的装备出现时，玩家们也会说：“这个装备很给力。”意思是说对于这装备，觉得很棒，同时也是表示自己十分喜欢这款装备。

現在、中国で最も流行しているSNS・一騰訊QQを使用するとき、ネット住民のチャット画面にはしばしば「给力」や「不给力」といった口癖が見られる。

学生同士で話していて「昨日の物理の実験、ホント面白かったよね、マジ『给力』。」という場合は、「昨日の授業はとても面白かった」という意味になる。反対に、「今日の国語つまらなすぎ、ホント『不给力』だよ。」といった場合には「今日の国語は全く面白くなかった」という意味である。

あるいは、会社の給料が上がったのに話が及べば、「今月のうちの社長、マジ『给力』だったよ！」といい、今月は給料が上がり、上司の方針に非常に喜んでいうことである。つまり、「今月、社長は本当によかった、我々の給料を上げてくれた」ということである。

または、ネットゲームで、ある装備が登場したとき、ゲーマー達は「この装備マジ『给力』だな」というだろうが、それはその装備を素晴らしいと思い、また自分もその装備を気に入っていると言っているのである。

2, 目前，给力一词不仅仅被用于网络上，现实生活中也经常被用到，譬如，我们去看演出，然而，演员及其表演的东西，令人出乎意料的成功，或者是个人表示十分喜欢时，就会说：“这个演出真的很给力！”意思是说，这个演出太棒了，演员太出色了，我表示十分喜欢，同时也是对演出的赞叹。

現在、「给力」という単語はネット上で使用されるだけでなく、現実の生活でもしばしば用いられ、たとえば演劇を見に行き、俳優と上演されたものが予想外の出来だったとき、あるいは誰かがそれをとても気に入ったとき、「この演劇は本当に『给力』だ！」という。その意味は、「この演劇は非常によい、俳優も素晴らしい、私はとても気に入った」ということであり、同時に演劇を褒めているのである。

3、目前，给力一词也被广泛用于网络推销。

例：今年冬季最给力靴子，仅售99元。意思是说这款靴子既流行，价格又便宜。

类似于这种网络推销的还有很多，比如说，去年的跨年晚会在做宣传时候就过给力一词，今年最给力跨年晚会于 - 月 - 日 - 时播出，届时会邀请给力演员——。并由——台给力直播，请届时收看。意思是说，今年最精彩的跨年晚会会在 - 月 - 日 - 时播出，到时候会邀请很多大牌的明星来表演，并且会由 - 台精彩奉献给观众。

係丁在不少网民们的博客里经常可以看到给力一次，对于我个人来讲，常常会在以下情况下使用。

1、看到别人的博客里发表了一些令我震撼而又赞同的文章时，我会在回复中说到：“这位大哥的发言实在是太给力了，我表示十分佩服。”

2、看到网上有趣的视频，譬如说一个经典电影，但是被配音成别的故事时，十分好笑。我在这段视频的回复中说：“配音的这个大哥，您真给力，人才啊！”

3、最近妈妈的饭菜不是很可口的，但是今天的饭菜却意外的很好吃，那我就会说：“今儿的饭菜真给力！”

現在、「给力」という単語はネット広告にも広く使われている。

例：「今年の冬、一番『给力』な靴、99元。」という意味は、このタイプの靴が流行しており、また価格も安いということである。これに似たネット広告は非常に多く、たとえば去年の年越しライブの宣伝にも「给力」という言葉が使われ、「今年一番『给力』な年越しライブは一月一日一時から放送、当日は『给力』歌手——を招き、——放送局が『给力』放送、ご試聴下さい。」といい、つまり「今年最も素晴らしい年越しライブが一月一日一時に放送、有名スターが主演、——局が皆様にお届けします」の意味になる。

少なからぬネット住民たちのブログではしばしば、「给力一詞」というのが見られ、私の見たところでは、以下のような状況で使用される。

1. 他人のブログで心を打つような、また賛同したい文章があったとき、コメントの中で「この人の言ってること、本当に『给力』だよ、感動した」と言う。

2. ネット上で面白い動画を見たとき、たとえばあるクラシック映画に別の音声をかぶせて別の話にしているのなどは非常におもしろい。そのときには動画のコメントで「音当てた人、本当に『给力』ですね、才能ある！」という。

3. 最近、母のご飯は大して美味しくなかったが、今日のご飯は思ったより美味しかった。そんなときには、「今日のご飯『给力』だったよ！」という。



12月31日 15场跨年晚会 PPS给力直播

- 出自于PPS网络电视的节目宣传

おわりに

人民日報の一面の見出しに使われた「给力」という言葉は、『漢語大詞典』に掲載されておらず、正式に認知されていない言葉である。この言葉の来歴は、さきに考察したように日本の漫画家、増田こうすけ氏の「ギャグマンガ日和」の中の『西遊記』に関するパロディマンガの中で使われた言葉「地味」の中国語訳、「不給力」の反対語としてネットの中で流行したものである。興味深いのは、それがめぐりめぐって、中国の共産党の機関誌、人民日報の見出しに使われたとみなされているからだ。増田こうすけ氏は日本人の誰もが知っているメジャーな漫画家ではない。一部で熱狂的なファンはいるものの、むしろ、オタクの中で好まれている漫画家である。その動画は日本の深夜の時間帯に放映されているものだが、それがyoutubeやニコニコ動画を通して中国のオタク（宅男・宅女・宅們）の世界で受け入れられ、多くの中国語の対訳が作られている。そしてそれらの訳の中で、「ジミッ」を「土氣」ではなく、「不給力」と訳したものが流行し、あわせて「给力」も流行したということになる。その流行が、ネットやオタクの世界にとどまらず、中国の権威を象徴しているとみなされる人民日報の執筆者にまで影響を与えたということであろう。

このマンガだが、『西遊記』のパロディで、さきにも考察したように、猪八戒は天竺到着までに、食材としてすでに三蔵法師たちの胃袋の中におさまってしまっているという設定である。もちろん、原作とは似ても似つかないパロディである。2010年は四川省や西安などで大規模な反日游行(反日デモ)がおこり、日中関係の悪化が懸念されている。本来、中国の伝統的な文学作品をバカにするのか、という批判が噴出してもおかしくはないのだが、一向にそういう気配はない。というよりも中国のオタク層の若者は、パロディをパロディとして理解しており、それに悪乗りするぐらいの下品な対訳をつけているのだ。わざ

と「老師」を「老湿」と書き、悟空が如意棒を伸ばして三蔵法師の尻を突き刺す場面に、原文にはない「菊花」を入れたりしている。そのことはパロディに対して目くじらを立てるよりは、ずっと健全である。

もう一つは新しい言葉のもつインパクトである。この世に存在するすべての言葉が、いつの時代かに新しく作られた言葉である。そして新しい言葉は他の使い古された言葉を凌駕する力をもっている。

いま中国や日本の新語、日本ではとくに「若者ことば」と呼ばれるものは、軽薄な流行として、わずかな時間に消え去る運命にあるものが多い。たとえば、「ナウい」などは、口にするのも恥ずかしくなるようなナウくない言葉になってしまっている。けれども、それらの中で息をながらえるものもある。

ひるがえって、はるか昔の、たとえば孔子の「仁」という言葉はどうだろう。この言葉は、孔子以前にも存在したとされている。けれども、ほとんど、使われていなかったようだ。それを取り上げて新しい意味を付与したのが孔子であった。孔子のすぐれているところは、この言葉を何の説明もなく、重要な概念として使用したことである。そのため、『論語』の中には「仁を問う」という言葉が顔淵篇だけでも、「顔淵問仁」「仲弓問仁」「司馬牛問仁」「樊遲問仁」と何箇所もあらわれる。仁は、ほとんど新語といってよいが、その当時、それだけインパクトをもって受け入れられたのは、それが新しい言葉であったからであろう。手垢のついていない新しい言葉を新しい意味で使用することで新しい価値観を生じさせたのである。

その意味で人民日報に使われた「给力」は大いに反響を巻き起こし、大成功であった。金子秀敏氏は、「2010年の新語大賞まちがいなし」と述べているが、「2010年度中国媒体十大流行语榜单及解读」^{*4}の「一 综合类」の「地震、上海世博会、广州亚运会、高铁、低碳、微博、货币战、嫦娥二号、“十二五”规划、给力」の十番目にランクインしている。これからも長く使われる言葉となるのではないだろうか。

*1 2011年11月18日(木) 毎日新聞朝刊大阪版 3面 木語 金子秀敏「おおゲイリーバブル」。金子秀敏氏は、毎日新聞の専門委員。

*2 ジャンプ・コミックス 増田こうすけ劇場 ギャグマンガ日和(5)第75幕 西遊記 ～旅の終わり～ 集英社、2004年。

*3 毎日新聞の記事が出たあとしばらくして大半が削除された。

*4 2010年12月30日、国家语言资源监测与研究中心、北京语言大学、中国传媒大学、

华中师范大学、中国新闻技术工作者联合会、中国中文信息学会在北京语言大学召开新闻发布会，联合发布“2010 年度中国媒体十大流行语”

http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1485/201012/113648.html